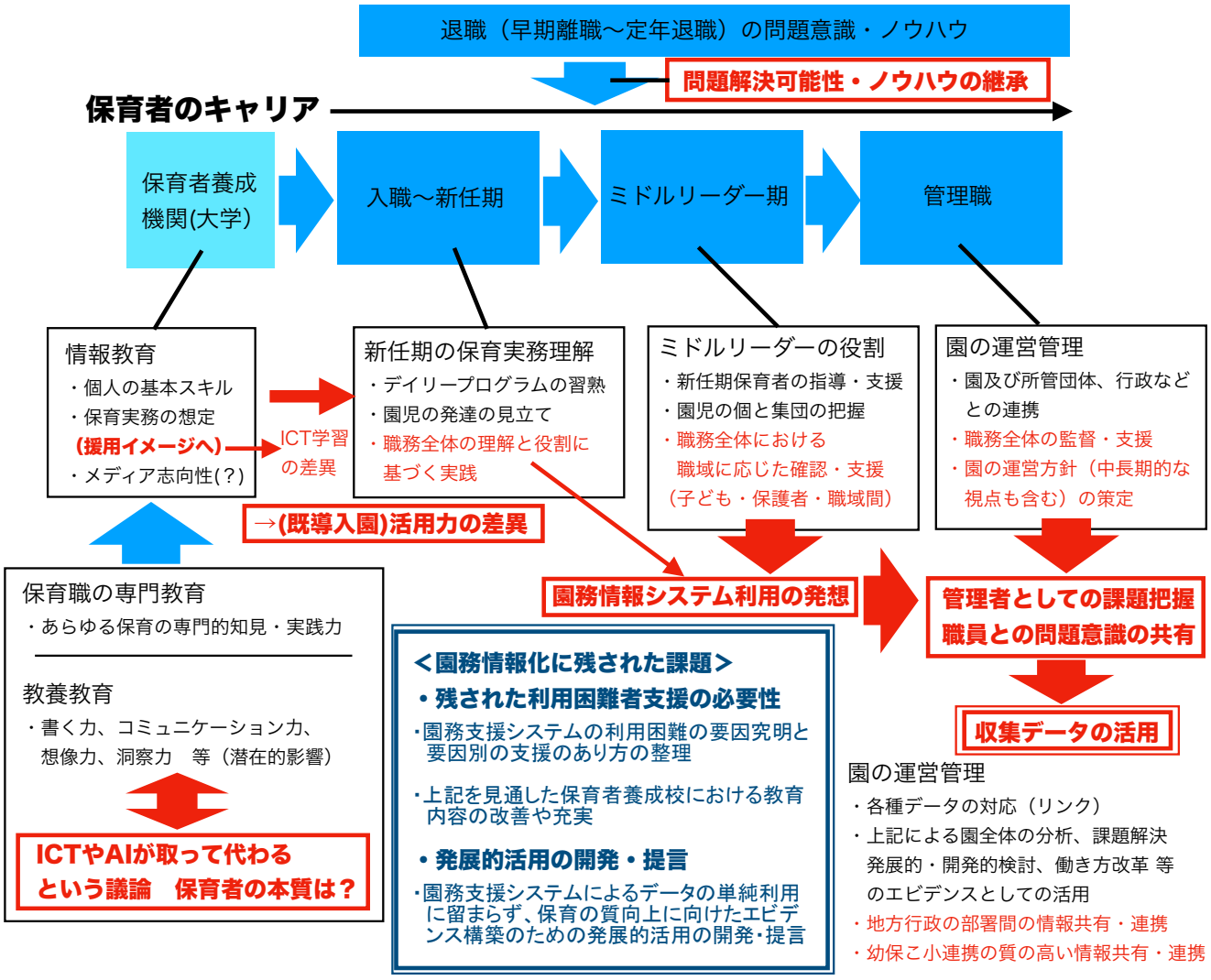
# 保育者のキャリアと業務を基軸とした園務情報化の今後の課題

森田　健宏[*1]・浦嶋　敏之[*1]・堀田　博史[*2]・佐藤　朝美[*3]・松河　秀哉[*4]
（関西外国語大学[*1], 園田学園女子大学[*2], 愛知淑徳大学[*3], 東北大学[*4]）

**＜研究の目的と方法＞**

保育職の業務の負担軽減の１つの方策として、近年の園務情報システム等の急速な普及が見られる。これにより、保育者が子ども達の育ちと向き合う時間や意欲が充実し、保育の質の向上に寄与することが成し遂げられるならば望ましいことである。一方で、保育者のキャリアに応じて求められる職能は増加し、その実情に対し、発展的な利用を視野にさらなる業務改善の発想を有することができるかが今後の課題となるであろう。また、多少に関わらず、保育職をICTに結びつけることが難しいユーザを取り残すことなく支援することも重要である。これら実情について、行政機関や保育現場等へのヒアリングの結果をふまえ、今後の研究すべき課題を構想図としてまとめた。




**＜結果と考察＞**

以下は、上記の図のうち、主なものについて述べたものである。下記以外にも上記の図から課題と見られる点は多くある。

【1】園務支援システムの積極的導入に向けた課題
これは、保育という営みで、直接対話を基としたアナログによる業務を習慣とした職能をデジタルに移行する導入初期で生じやすい問題であり、未だ解決されがたい課題でもある。特に、ドキュメントについては、保育文化の中で非常に重要なものであるが、AIやICT等による定型文や自動生成が園務支援システムで一部導入される事例もある。しかし、このことが、保育職としての本質的な職能形成に活きるのかは、議論すべき点であろう。

【2】収集データの発展的･開発的活用
登降園入力管理システムや健康管理記録、保護者との情報交流など、多様な情報が収集、管理できるメリットは認められる。現状では、各々のデータについての確認利用が多いが、各種データを結集させることによって、園運営の発展や新たなサービスの開発、第三者評価へのエビデンス、よりよい説明や情報発信等への展開が期待できる。
このような開発的活用に資する研究と保育界への還元も重要と思われる。

**＜謝辞＞** 科研費 KAKENHI 本研究は、科研費（JSPS18K02875）の助成を受けた成果の一部です。